【高等学校用】

令和５年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀県立鳥栖工業高等学校（全日制）
1　前年度 評価結果の概要	・コロナ禍三年目を迎える中、保護者、生徒、職員の協力で、今年度も進学、就職率の100%を達成できた。学校評価においても本校への満足度は高く、様々な活動に対する理解と協力を得ている。学校関係者評価も良好である。 ・コロナ禍における学びの形態が大きく変わろうとしている中、リモート授業に対する職員の技術向上が求められる。また、実習など、リモート学習が難しい場合の取り組み方の工夫が必要である。 ・志願者率の低下が引き続き危惧される中、「ものづくり」技術を活かした地域貢献活動を更に活性化させ、工業高校の魅力を伝える活動が必要である。 ・今後も教職員の働き方改革を推進する。また、出退勤管理システムを効果的に活用し、時間外勤務の縮減を図る。さらに、部活動の在り方等を見直し、今年度以上に健康的で活気のある職場環境を整えていく必要がある。
2　学校教育目標	広い視野と豊かな創造力を持ち、自ら学ぶ意欲と自らを律する力を備え、心身共にたくましく、個性豊かで人間愛に満ちた、社会に貢献できる工業技術人の育成を図る。
3　本年度の重点目標	①唯一無二の誇り高き学校づくり（学校の魅力のブラッシュアップ・情報発信） ②学力向上（主体的学びの定着） ③工業技術の習得（資格取得の奨励） ④心の教育（人権意識の向上）

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○授業の充実、指導方法の工夫・改善に関しての取り組み	○生徒の授業に対する理解度85%以上を目指す	・全職員が参加する相互授業参観を計画し、授業の充実、指導方法の工夫・改善につながる取り組みを各教科で行う ・タブレットPCの利用を推進し、生徒の理解がより深まる実践的指導を行う	B	・前期の調査では「どちらかといえば、はい」を含め生徒の80%以上が授業を理解していると答えている。後期の調査迄に、相互授業参観、職員研修や生徒による授業アンケート等を行い理解度の向上を図る。継続的に授業改善に努め、授業を十分理解していると答える生徒を増やしていきたい。	B	・授業に対しては「どちらかといえば、はい」を含め、83%の生徒が理解している答えており、指標の85%には到達しなかった。 ・きめ細やかな授業を実践し、毎時間指導と評価の一体化を図り、生徒の理解度や習熟度を把握することで生徒の実態に応じた授業改善を継続する。	B	・学力の底上げに対する取組をお願いしたい。 ・ICTの活用法など、学校独自の取組みができたら良いと思う。 ・学習方法がわからない生徒に対して、質問しやすい環境を作ることが学習意欲の向上につながる。 ・例年基礎学力向上が課題として上がっている。基礎学力の保証は、これまでの初等教育からの積み残し課題である。高校の校内の人的リソースだけでは対応に限界がある。	教務主任 教科主任 学年主任
	○志を高め、希望進路の実現	○就職・進学の希望を100%実現する	・学習計画表を配布し、定期考査、模擬試験等に向けた家庭学習の定着を図る ・年間5回実施するキャリア・パスポートを基に、個々に合った進路情報の提供、進路指導の充実を図る	B	・進路・学習指導に対して「どちらかといえば、はい」を含め生徒の90%以上が十分満足していると答えているが、2年生の満足割合が80%とやや少ない。進路・学習指導の個別最適化を図り、3年次の満足度アップを図りたい。	A	・今年度も、求人数が過去最多を更新した。3進路指導に対する満足度は、生徒、保護者ともに今年度も90%を超えることができた。 ・求人票を電子化し、タブレットPCで閲覧出来る取組みを行った。	A	・目標を持つことは本当に大切で、色々な情報・実勤を通して目標を見つけてもらいたいものである。 ・卒業生の就職先と連携をとり、卒業生に、仕事の実体験等を話してもらう講演を企画するなど、更なる進路指導の充実を図ったもらいたい。 ・進路指導は十分な取り組みをされている。	進路主任 教科主任 学年主任
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権意識の向上が感じられた生徒を100%にする	・人権・同和教育講演会を行う ・情報の授業、LHRにおいて、情報モラル教育、人権教育を行う	B	・人権意識の向上については、「感じられた」と答えた生徒がほぼ63%で、35%以上の生徒が「どちらかといえば、感じられた」と答えている。「感じられた」と答える生徒の割合をさらに増やすために、今後もあらゆる機会を捉え、教育活動の充実化を図りたい。	A	・人権・童話教育では、それぞれの学年に応じた目標を設定し、LHRを実施した。具体的には、1・2年は、「個性を受け入れいじめをなくす態度を養う」、3年生は「就職・雇用問題と人権～公正な採用選考について考える」を目標に実施した結果、生 徒の関心は非常に高く、人権意識の高揚が見られた。今後も継続したい。	A	・多様な切り口で、教育機会が提供されている。それらが、いじめ防止等の底支えとなっていると思います。 ・今後も継続していただきたい。 ・宗教的なことが社会問題となっているが、このあたりはどう指導されているか気になった。	人権・同和教育担当者 学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○悩みを相談できる教職員がいるという生徒を80%以上にする	・いじめに関してのアンケートを年間に2回以上行う ・いじめ対応についての研修や啓発活動を年間に2回以上行う	B	・76%の生徒が、学校生活等における悩みを相談できる職員が本校内にいると答えている。学年が上がるにつれて、その割合も増えているため、今後も教職員からの積極的な声掛け等を行い、いじめ等の未然防止、早期発見と対応を教職員一丸となり取り組む。	A	・相談できる職員が校内にいると答える割合が、生徒において、7月より12月の方が増えており、「どちらかといえば、はい」を含め8割を超えている結果であった。 ・教育相談係が、生徒の相談しやすい環境と他の校務分掌と上手く連携しているため、本校の取り組みは良くできていると思われる。	A	・いじめの未然防止は、大変なことだとは思います。SNSを使ったいじめもあるため、SNSの使い方について生徒へ啓発する講演があればよいと思います。 ・心身両面において成長期にある生徒に対し真摯に取り組んでおられると感じる。	教育相談主任 生徒指導主任 学年主任
	◎★ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動の推進	◎佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じるという生徒80%以上を目指す ★郷土の人材を活用した講演会等、全学年対象に年間1回以上行う	・佐賀県内各地域に関わる郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した教育活動に取り組む ・全学年対象に年間1回以上、郷土の歴史や文化を学ぶ講演会を行う	B	・8%程度の生徒が佐賀県に誇りや愛着を感じていないと答えている。県外からの通学者も12%、本校に在籍している状況である。後期の調査迄に、特別活動や朝読書を通して、更に多くの生徒が佐賀県に関心を持つよう取り組む。	B	・3年生対象の講演を実施することができた。また、朝読書の時間を利用し、「佐賀語り」の読書に全学年で取り組んでいる。 ・佐賀県に誇りや愛着を感じていると答える生徒の割合を80%以上にする目標は達成できなかった。 ・継続して、講演会等のあり方を検討すると共に、佐賀県の魅力を伝える機会を増やしていきたい。	A	・佐賀県民である大人から見ると大変ありがたい取り組みだ。「佐賀で何をやりたいか」などを問いかける授業も良い。 ・福岡県と比較して劣ることが多いのではないか。 ・郷土愛につながる意識づくりを。	図書主任 3年担当
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒を80%以上にする ○毎日、朝食をとる生徒80%以上を目指す	・生活状況調査、食に関する意識調査を行う ・全学年に食育に関する講演会を行う ・保健だよりを定期的に発行し、食に関する意識を高める	A	・健康と食事に対する生徒の関心は高く、ほぼ全員が食事を大切と考えているが、朝食を毎日とるという生徒は91%である。目標は達成しているが、食育に関する講演会や保健だより等で家庭での協力を更に得られるようにしていきたい。	A	・朝食を毎日とるという生徒は「どちらかというとはい」を含め、90%を超えている。学校の指導、家庭の協力を更に求める必要がある。	A	・食事の大切さに対する認識は目標に達していますが、実際に生徒たちが朝食を摂るかどうかは、学校の外の問題であり、家庭の理解と協力が欠かせない。そのため、成果を測る指標の適切さについては、疑問が残る。 ・家庭の協力を得るためには、PTAをはじめとする多角的なアプローチを模索する価値があるのではないでしょうか。	保健主事 食育担当者
	●安全に関する資質・能力の育成	●生徒の交通事故件数0（ゼロ）を目指す	・交通安全に関する講演会・講話を行う ・自転車安全点検を年間に2回以上行う ・職員による街頭指導を定期的に行う	C	・交通安全に対する生徒の意識調査では、ほぼ全員が「交通安全に注意をしている」と答えた。しかし、登下校における交通事故が発生し、交通事故件数0（ゼロ）は達成できなかった。殆どが、自転車における事故であり、今後も継続して、警察署の連携を図り、交通安全指導を計画的に行っていく。	B	交通安全の意識は生徒自身は非常に高く、ほぼ100%に近いものの、交通事故ゼロは達成できなかった。 特に自転車乗車中の事故の割合が多く、今後の交通安全指導も教職員、保護者、地域との協力のもと、更なる指導を引き続き行っていく。	B	・自転車関連の苦情は私も聞いている。また、事故対策などの指導について情報共有してほしい。 ・交通安全以外に、生徒に向けてSNS利用に関する、専門の講師を招き、モラルに関する指導も必要。	生徒指導主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する	・月曜日を定時退勤日とする ・学校閉庁日を設定する ・部活動休養日を設定する ・会議の精選や会議時間の短縮を図る	B	・79%の教職員が、勤務時間を意識した働き方を「実行できている」と答えた。今年度は、会議時間の短縮化を注力し行った。部活指導では、休養日の設定（平日1回、休日1回）も継続している。	B	・86%の教職員が勤務時間を意識した働き方がほぼできていると回答している。 ・今年度から、職員会議時間の短縮、「eメッセージ」（メール配信システム）の利活用による欠席・遅刻連絡、文書配信、アンケートにより、業務の時短化・効率化が図ることが出来た。	B	・改善の方向で進んでいるが、子供たちに影響のあることなので、引き続き改善をお願いします。 ・部活動顧問が休まなければ生徒も休みません。双方のリフレッシュのためにも継続してをお願いしたい。	管理職

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★工業技術・スポーツ分野における全国大会等での上位入賞 ★県外からの入学志願者数の増加	★自分の学校を中学生に勧めることが出来る生徒の割合78%以上、教職員の割合85%以上を目指す ★全国大会等での上位入賞者数、5名以上を目指す ★県外からの入学志願者数、募集定員の10%以上を目指す	・工業技術・スポーツ分野において、生徒の可能性・潜在能力を十分に引き出す指導を適正かつ科学的に行う ・学校のホームページや学校紹介リーフレット等を活用し、情報発信を効果的に行う	A	・今年度は、本校野球部が全国区で注目された。また、インターハイでは、5競技が出場した。10名の選手が上位入賞（6位以内）を達成し、レスリング競技では、男子団体優勝を果たした。また、野球部の全国大会出場を機に、クラウドファンディングのホームページを立ち上げ、活躍の様子を掲載し、学校内外から多くの支援を得る事が出来た。後期においても、県内外からの入学希望者の増加に結び付く情報発信を努める。	A	・今年度を総括すると、野球部の甲子園出場、レスリング部のインターハイ優勝、そして、駅伝部の全国大会出場をはじめとした目覚ましい活躍があった。その他に、工業系部活動でも電気工事士のものづくりコンテスト全国大会へ出場した。 ・野球部、駅伝部の全国大会出場を受けて、クラウドファンディングを実施し、コンテンツを充実させたことで、多くの方からご支援を受けることができた。	A	・今年度は、鳥栖工業高校の甲子園初出場を含め、活躍した1年であった。 ・競技成績の向上と共に、社会で通用する人間性育成も両立して取り組んでほしい。 ・昨年度同様、すばらしい結果も残されており、先生方、生徒のみなさんの努力に評価大だと思います。	部活動顧問 教務主任 情報部主任
○工業技術の習得	○資格取得の奨励	○各生徒が1つ以上の資格を取得する	・各工業科において、資格取得を奨励し、その資格の必要性と将来性を紹介するとともに補習体制を強化する	B	・生徒の資格取得希望の割合については、86%の保護者が希望しているが、生徒自身は70%と高くない状況である。生徒が資格取得の重要性を理解し、かつ合格率が向上するよう指導に努める。	A	・職員の指導体制は十分と考えられる。 ・資格取得においては、国家資格である技能検定に挑戦していた。 ・3学期は資格取得の機会が少ない事もあり、後期の調査では保護者、生徒ともに資格取得の希望割合は減少する傾向となる。	A	・資格試験指導等を含め、工業高校の特色を生かし、様々な機会をとらえて効果的な教育に努めている様子がうかがえる。 ・各科がお互いに切磋琢磨し、指導されている事がうかがえる。 ・将来的に、本当に必要な資格かを精査し、検討も必要だと思います。	各工業科主任

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育　★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

5　総合評価・ 次年度への展望	・今年度はできるだけ学校全体で、今やれることを組織的に取り組むことができた1年だと思う。新型コロナウイルスが五類感染症に移行し、何より生徒達が喜び、笑顔が学校に戻ってきた。 　来年度はさらに各評価項目の改善点を整理し、コロナ禍前の活動に戻したい。 ・志願者率の低下が引き続き危惧される中、多角的な視点で、情報を発信し、保護者・地域からの信頼や本校への志願者確保に繋げる活動を継続する。 ・教職員の働き方改革を継続する。また、出退勤管理システムを効果的に活用し、時間外勤務の縮減を図る。さらに、部活動の在り方等を見直し、今年度以上に健康的で活気のある職場環境を整えていく必要がある。